

世路易ニ事へ趨走スル狀ノ如シ其ノ賤陋ナル奴僕ノ態見ルヘン
革命儀例既ニ畢リ巖然タル政廷ヲ興隆セシニ因テ國民ノ歡喜欣躍ス
ルコト際リ無ク佛民ノ如キハ皆嘗テシヤコバン王家ノ暴政ニ苦ミ且
共和政治大統領ノ衰運ニ遭ヒ其ノ困阨ヲ取ル所ノ者ナリ

第一百九十九篇

再度ノ兵亂オーストルリッツノ役プレスブルグノ講和并ニ

ブレッスヴァンドーンニ圓銅柱碑ヲ立ツ

佛英二國ノ和親スル久シキコト能ハス復干戈ヲ交フルニ至レリ其ノ
孰ヲ是トシ孰ヲ非トスル余ノ能ク辨識スル所ニ非ズ其ノ先戰ヲ公告
セシ者ハ英國ナリ未戰ヲ公告セサルニ當テ英國其ノ民ニ布令シテ曰
ク凡何ノ地ヲ問ハス何ノ處ヲ論セス其ノ點檢査出スル所ニ隨テ佛國

ノ船舶ヲ奪掠セヨト此實ニ紀元一千八百三年第五月十六日ナリ

拿破侖亦令シテ曰ク英國國民ノ和蘭佛國內ニ在ル者ヲ見ハ誰人ヲ論セ
ズ悉ク之ヲ捕縛セヨト二國ノ令スル所既ニ斯ノ如シ其ノ下民ニ於ケ
ル亦大不幸ナラズヤ英國人ノ殘暴ナル之カ爲ニ佛國船戶ヲシテ悉ク
衰廢ニ属セシメ又佛國人ノ無情ナル此ノ時國家寧靜ニ属シ諸地方ニ
遊寓スル百千萬ノ英國人ヲ捕虜スルニ至レリ

是ヨリ先キ佛國共和政治軍人ノ勝利ヲ得タル者大ニ美麗ナル偶像及
漆器等ノ物品ヲ以太里及和蘭ヨリ畧取シ得テ齎シ歸レリ是ヲ以テ高
貴富豪ノ士及好專家ノ古器奇品ヲ辨明セル諸生等多ク巴里府ニ來集
シ展觀セリ

今此ノ人衆悉ク拘留セラル其ノ家郷ヲ辭スル時ハ僅ニ數日ヲ期シ妻

子ニ別レ去リシニ今ニ於テハ期ノ如ク歸郷スルコトヲ得ス其ノ親族ト離隔スルコト幾年時ヲ度ルヘキヤヲ知ラサルニ至レリ其ノ解放セラレテ其ノ郷國ニ還ルヲ得ルハ唯兩國和平スルニ至ルニ非ズハ得ベカラサルナリ

紀元一千八百三年第五六月ヲ以テ佛軍ハノーブル日耳曼列國中ノ一ヲ畧取セ

リ而シテ後一千八百五年第二月四日ニ及テ拿破侖復舊ヲ英王第三世

ジョージニ贈レリ其ノ文中務テ交戦ヲ休メンコトヲ諭示セリ王ジョージ竟ニ之ニ答フル書ナシ

是ノ時魯西亞澳地利ノ二國亦佛國ト抗戦スルヲ公告ス而シテウルテンベルグ及バヴァリヤノ二小邦兵ヲ出シテ拿破侖ト合従ス拿破侖乃二邦ニ貽ルニ王號ヲ以テシテ之ヲ賞セリ

既ニシテ澳軍來テバヴァリヤヲ襲撃ス是ニ於テ拿破侖親クランド、アルメー即老練ノ軍ニ將トシテ之ヲ援ク爾來直ニ號令ヲ拿破侖ニ受クルノ軍ヲ稱シテグラント、アルメート呼ヒ做セリ時ニ澳軍力拿破侖ニ敵スルコト能ハス

拿破侖其ノ第十月ヲ以テ進テ日耳曼ニ入り十一月十三日ヲ以テ維納府ヲ畧取セリ此ノ府ハ澳地利ノ有ニシテ實ニ壯麗ノ一首府タリ拿破侖其ノ最壯麗ナルシヨーンアルナ宮ヲ取テ此ニ居ル此ノ宮ハ當日ニ及フマテモ日耳曼帝王歴世居住スル所ノ者タリ

其ノ第十一月二十七日ヲ以テオーストルリッツノ大役アリ魯西亞及澳地利ノ軍大ニ潰敗ス乃拿破侖自其ノ意ノ如ク講和ノ約條ヲ指畫セリ是ニ於テ拿破侖ノ佛帝號ヲ稱シ又ウルテンベルグ及バヴァリヤニ

邦ノ王號ヲ稱スルカ如キモ共ニ之ヲ聽シテ敢テ異議スル無ク竟ニ紀元一千八百五年第十二月二十六日ヲ以テ此ノ盟約ヲプレスブルクホノ一市邑ニ修メリ

此ノ戰勝ヲ記セント欲シ乃一ノ大ナル高圓柱碑ヲ巴里府中大街頭ニ立ツ而シテ之ニ纏帶スルニ青銅ノ螺形環ヲ以テシ其ノ柱本ヨリ柱梢ニ至ルマテ其ノ環ニ刻スルニ佛軍出テオーストルリッツノ役ニ至ルマテ最大事功ヲ録寫セリ是此ノ役ニ敵軍ヨリ獲ル所ノ鈍砲一千二百門ヲ以テ製造セシ所ナリ且柱頭ニ帝拿破侖ノ像ヲ安置シタリ今ニ至テハ則棄テ之ナシ

第二百篇

トラファルガルノ戰拿破侖戰勝ノ後記ナルジイットノ講和

及二帝ノ出會

佛軍既ニ陸地ニ於テ戰勝ヲ得タリト雖英軍海上ノ戰ニテ乃大ニ敗テ取レリ佛軍ノ船艦只其ノ港口ニ漂寄シテ大軍ヲ張ルコト能ハス拿破侖英國ヲ襲撃セント欲シボーロン港ニ在テ大ニ其ノ備ヲ爲セリ其ノ事功ナシト雖拿破侖一時大ニ艦隊ヲ簡練スルヲ以テ佛國水師提督是ニ於テ奮勵シテ海戰ヲ爲サント欲ス

佛ノ水師提督其ノ艦隊ヲ率ヰテ英ノ艦隊ニ對セリ是ノ時英國ノ艦隊其ノ勢佛國ノ艦隊ニ敵セス佛ノ水師提督因テ勇進シテ戰ヲ挑ム此ノ時乃佛國ノ不利ヲ取レリ何トナレハ英ノ艦隊ハ名將ロルト、子ルソンノ指揮スル所ナリ因テ殆佛國ノ全艦ヲ擊破スルニ至レリ世ニ此ノ役ヲ稱シテトラファルガルノ役ト爲セリ即紀元一千八百五年第十月十

二日ヲ以テ兩軍相解テ退ク是ノ時英軍戰勝ヲ以テ大ニ賀スト雖計ラズ其ノ名將チルソン氏ノ戰死スルアルヲ以テ衆皆哀傷シテ巴ムコト能ハズ然レトモ勇將チルソンハ今日大戰勝ヲ收ムルヲ目撃シテ瞑セシナリ

是ノ時歐洲過半拿破侖ノ管理スル所ニ屬セリ拿破侖大ニ宿志ヲ遂ケ其ノ意ノ欲スル所ニ隨テ王者ヲ進退スルノ權理ヲ得タリ即拿破侖ノ弟ジョセフヲシテチープル國ノ王位ニ即カシメ又其ノ次弟路易ボバルトヲシテ和蘭國王ト爲スハノーヴェル國ハ英國王世襲ノ地ナリシモ拿破侖之ヲ普魯西國王ニ與ヘリ此ノ普魯西王ノ是ノ役ニ當テ局外中立タリシヲ以テ之ヲ褒賞スルナリ

日耳曼國ハ曾テ羅馬法王レオノ佛王シヤルマンノ頭上ニ金冕ヲ服セ

シヤシ時ヨリ成立セシ所ノモノナリ而ルニ今廢滅ニ屬セリ而シテ日耳曼王者ノ相結盟スル者十四個是皆最小ノ國權ヲ保持スル者ニシテ

コンフイデラーレモン・ド・ライン ライン河邊ノ諸州結盟會同ノ稱號ヲスルヲ以テ此ノ稱號アリ

以テ相共ニ連合シテ拿破侖ノ保護管理ヲ受ル所ナリ第二世フランスノ如キモ禮儀ヲ正シテ舊日耳曼帝號ヲ廢シ澳地利帝號ヲ取ルニ至レリ

拿破侖ノ權勢威力斯ノ如ク赫奕タルヲ以テ世人驚怖スルモ亦甚シ澳地利ノ如キハ初之ニ抗敵スト雖既ニ大ニ其ノ國力ヲ損スルヲ以テ復共ニ抗スル能ハス但普魯士國ニ至テハ未曾テ其ノ國力ヲ竭シテ之ト角逐セス是ニ於テ普魯士國王フレデリック始メテ佛國ト相爭ハント欲シ其ノ公告ヲ發キリ拿破侖之ヲ聞キ勃然トシテ起テ直ニ大軍ヲ以

ヲ進發ス乃紀元一千八百六年十一月四日ヲ以テエナノ地ノ大戦勝
アリ同月二十五日ニ及テ勢ニ乘シテ普魯士國ノ首都ベルリン府ニ進
入セリ

拿破侖頻ニ勝軍ノ勢ニ乘シ紀元一千八百七年第二月八日エイセイニ
於テ大ニ魯國ノ兵ヲ撃破シ又第六月十四日ニ至テ再魯兵ヲフリード
ラントニ破ル此ノ二役ノ結局ニ至テ魯國帝アレキサンドル其ノ戦ヲ
喜ムノ驕心頓ニ挫折シテ佛國ニ講和ヲ求ムルニ至レリ因テ紀元一千
八百七年第七月七日ヲ以テ和約ヲナルレット普魯士國ノ一市邑府ニ於テ行フ
此ノ和約ノ條款ハ兩國帝相共ニ商議スル所ナリ其ノ兩帝始メテ相會
スルノ禮式ニ在テハ往昔帝王修ムル所ノ例ト甚異ナルコト無シ時ニ
ニユメン河ノ中央ニ一個ノ筏ヲ繫ケリ此ノニユメンハ魯國ト普國ト

ノ境界ヲ爲ス所ノ河水ナリ
兩帝各ニユメン河岸ヨリ同時ニ乗船セリ時ニ兩岸ニ觀望スル者數千
人兩帝乃河中ニ繫ク所ノ筏ニ上リ帷幕中ニ入テ互ニ親シク相接見シ
テ以テ其ノ禮ヲ爲ス時ニ兩國ノ軍隊呼聲河水ヲ動カシ相與ニ之ヲ祝
セリ往時斯ノ如キ際兵士ヲ備フル所以ハ異心ノ人ノアランコトヲ恐
レ之ヲ防護センカ爲ナリ而今兩國各其ノ軍ヲ出シ其ノ國境ニ出會ス
ル所以ハ唯兩帝相會スルニ當テ各其ノ君主ノ威武ヲ缺損スルコト無
カラシメント欲シテ然ルナリ

トヲフアルガルノ役ニ於テ英國艦隊ノ將チルソン氏敵兵ニ其ノ肩
總海陸軍將及士官ノヲ撃タレタリ而シテ其ノ銃丸竟ニチルソン氏
ノ肩胛ニ没スルニ因テチルソン氏ハ甲板上ニ倒ル時ニ數個人來テ

共ニ將帥ヲ扶ケ起立セシメントスナルソソ氏始テ覺リ回顧シテハ
 ルデイト云フ者ニ謂テ曰ク敵兵竟ニ意ヲ余ニ得タリト數人逐ニ
 扶ケテテ子ルソソ氏ヲ引テ梯ヲ下ラシム時ニキルソソ氏舵繩舵柄ト
 輪トノ
 間ニ施スノ敵ニ射ラレテ悉ク斷絶スルヲ見テ再其ノ舵繩ヲ設ケン
 コトヲ命セリ而シテ後自手巾ヲ以テ其ノ外貌ヲ蔽フ此其ノ傷ヲ被
 ムルヲ以テ其ノ水兵ノ銳氣ヲ挫カンコトヲ恐レ隱シテ知ラシメザ
 ランカ爲ナリ是ヨリキルソソ氏艦内ナル治療所ニ到ル醫其ノ傷ノ
 治スヘカヲサルヲ明審シテ子ルソソ氏モ亦自其ノ起キサルヲ知り之ニ
 謂テ曰ク醫士余ヲ棄テ、猶治スヘキ創傷人ノ所ニ至ルベシト子ル
 ソソ氏疼痛彌劇シト雖尙自勝敗如何ヲ識ラント欲シ切ニ問テ己マス
 而シテ又曰ク誰カバルデイトヲ召シ來ルモノアル余ハ殺サレズシ

テ必自ヲ死スルコトアルベシトハルデイト即來テ其ノ手ヲ握テ語
 ルコト能ハズ少頃ニシテ子ルソソ氏甚低聲ニ謂テ曰クハルデイト勝
 算如何ソヤト而シテ後英國艦隊利ヲ得テ一モ降ル者アラサルヲ審
 ニシ因テ自其ノ身事ヲ語テ曰ク汝ハルデイト余ハ死者ナリ余ノ命
 今將ニ去ラントス百事悉ク余ト共ニ去ラント時ニハルデイト子ル
 ソソ氏ノ快復ノ機アラントヲ望メリ子ルソソ氏曰ク否否此ノ事必
 得ベカヲズ余己ニ中心ニ感悟スル所アリ必當ニ死スヘキナリト侍
 醫子ルソソ氏ニ問テ云ク君今深ク疼痛苦腦スル所アリヤ子ルソソ答
 フ余心大ニ喜テ自死センコトヲ祈念スト然ルニ英國全ク軍勝ヲ取
 ルニ及テ子ルソソ其ノ艦隊ニ投錨センコトヲ令シ復自語テ曰ク余
 ガ死スルニ及テ屍ヲ船外ニ投スル勿レハルデイト來テ余ヲ親嘴セ

ヨト時ニハルデイ一跪坐シテ其ノ命ニ從ヘリテルソン氏又謂テ曰ク
余カ志足レリ余自職務ヲ成シテレリ此唯上帝ノ德惠ナリハルデイ
一感謝セヨト即再テルソン氏ヲ親嘴シテ其ノ天福ヲ受領シ竟ニ永ク
訣別セリ此ノ役ニ當テテルソン氏素ヨリ自死ヲ決セリ其ノ軍ノ勝利
ヲ取ルモ亦自決セリ其ノ身生テ凱陣ノ歡ヲ衆ト共ニ受ルコト能ハ
サルモ亦自決セリ

第二百一篇

普魯士王后ノ事及拿破侖新王ヲ封スルコト

茲ニ初テ相見ノ禮ヲ修シ而シテ後兩帝互ニ其ノ虚儀ヲ廢シ只管ニ親
愛懇篤ノ談話ヲ爲スニ及ヘリ拿破侖又力ヲ極メテ快樂戲事ヲ爲シ其
ノ妙手ヲ見ハセリ時ニ普魯士王直ニ自ケルシット市街ニ來レリ然レト

モ拿破侖普王ヲシテ敢テ魯帝アレキサンドルト同等ノ地位ヲ以テ之
ヲ遇セス

拿破侖大將帥ノ職ニ在テ三國帝各其ノ意見ヲ話スルヲ以テ一大歡娛
トセリ自謂テ曰ク余カ如キハ三帝中兵事ニ於テ最暗昧ナル者トス三
帝各話スル所アリ其ノ話ハ一兵士軍裝表衣ノ前面及後面ニ在ル所ノ
扣鈕ノ數或ハ其ノ裾縁ヲ裁割スル様式等ノ事ノミ時ニ軍中ニ在テ裁
縫ヲ事トスル工匠等其ノ表衣ノ製尺度ノ段匹ヲ以テ之ヲ裁縫スルヤ
ヲ計算スルニ至テハ一人ノ普王フレデリツキノ暗識スルニ如ク者無
シ

拿破侖人ニ語テ曰ク余此等ノ事ニ於テ裁縫ノ事ヲ指ス甚拙シト雖彼ノ帝ヲ
賤視スルヲ好マサルヲ以テ是等モ亦戰爭ニ要ナル者ノ如ク和答ヲ爲

セリ先ニ佛國ノ兵若シ其ノ將帥ノ任ヲ一個ノ裁縫匠ニ任セシメハ普魯士王ノ如キモ必セエナニ於テ勝ヲ取ラン然レトモ戰勝ノ要ニ至テハ偏ニ其ノ兵士ヲ指揮スル將帥ノ練熟ニ在テ縫匠ノ表衣ヲ裁スル練熟ニ在ラサルヲ以テノ故ニ普魯士國人大敗ヲ取ルニ至レリト

普魯士后ハ美麗ニシテ才智俊秀温雅ノ風ヲ存セリ茲ニ深ク拿破侖ノ懇接ヲ得ント欲シ心力ヲ竭シテ之ヲ謀レリ此專普王ノ爲ニ其ノ多惠ノ情誼ヲ得ント欲シテナリ而ルニ拿破侖ハ其ノ后シヨバインノ好言ニ誘セラレヌ乃謂フ吾一モ普后ノ偽情狡計ニ惑フ無キコト恰蠟布ノ雨水ヲ防クカ如シト

拿破侖一日普后ニ贈ルニ一朶ノ薔薇花ヲ以テス此ノ花殊ニ嬋娟ノ美色アリ王后初ハ一切ノ禮物ヲ辭シテ受ケサルニ遂ニ之ヲ收メテ答フ

ルニ嘗テ拿破侖ノ畧取スル所ノ普國ノ一都マグデンプルグヲ求メタリ拿破侖憤然トシテ愠テ曰ク余ハ之ヲ贈ルノ人タリ后ハ之ヲ受ルノ人タリ請フ能ク是ノ義ヲ辨スヘシト

普后ノ佞諛ヲ極メカヲ盡セシコト一モ其ノ夫王ノ爲ニ利スル所ナシ普王殆其ノ領地ノ過半ヲ奪掠セラルニ至レリ普王ノ失フ所ノ地ヲ割テサキソニーノ新王ニ贈リ其ノ餘ノ地ハ又分テ新ニウエスファリー國王ゼロームニ與ヘリ

往時歐洲各國ノ拿破侖ニ抗スル者連ニ佛兵ニ擊破セラルヲ以テ遂ニ大ニ畏服ノ態ヲ見ハセリ英國ニ至テハ其ノ地多クハ島嶼ナルヲ以テ僅ニ攻撃ヲ免ルコトヲ得タリ此ノ時ヲ呼テ拿破侖ノ大威權ヲ有スルノ秋ト做セリ

歐洲南部已ニ服ス手ヲ下スヘキ王國アラサルヲ以テ即又兵鋒ヲ轉シ
テ其ノ北部ニ向ハントス拿破侖乃先西班牙王第四世ナヤールレスト云
フ者ニ連合シテ葡萄牙國王ニ向テ兵ヲ出タス時ニ葡萄牙國ノ王族ハ
悉ク伯西爾國ニ避遁ス因テ紀元一千八百七年十一月三十日ヲ以テ
佛軍直ニ葡萄牙ノ首府リスボンニ進入セリ

其ノ翌年ヲ以テ西班牙王其ノ位ヲ辭シテ帝拿破侖ニ贈レリ拿破侖乃
之ヲ以テ其ノ弟ジョセフニ授ク而シテ又拿破侖ノ妹夫ミューラト云
フ者ニチーブル國ノ王位ニ登ルコトヲ得セシム

第二百二篇

再澳地利ヲ服ス維納ノ講和及拿破侖婚ナマリー、ルウイーブ
ニ結フ

西班牙及葡萄牙ノ兩國首府ハ今己ニ佛國ノ有ト爲ルト雖二國ノ民未
心服ノ色ヲ呈ハサズ英國王此ノ機ヲ見テ其ノ佛ノ保護ヲ賴マサル所
ノ人ヲ即二國ノ人民ヲ助ケントシテ軍ヲ出タス即葡萄牙國ニ向フ將
ヲソル、アルソル、ウエリー、ズリート爲ス此ノ將ヲ説クニ其ノ稱號ウエ
ルリントン侯ヲ以テセハ讀者則解シ易カラシ

ウエルリントン侯乃葡萄牙ヨリ佛軍ヲ驅逐ス其ノ時ジョセフ當時西
班牙王

位ニハ其ノ首府マドリットヲ遁レ去ラントス乃拿破侖ノ來テ援フニ
在リ因テ復佛國ノ成業ヲ回復スルニ至レリ紀元一千八百八年十一月ヲ
以テ拿破侖西班牙國ニ突入シ自本土ノ君主ト稱セリ而シテ第十二月
四日ニ及テ其ノ首府マドリットノ民亦翕然トシテ來服セリ

歐洲諸國ノ曾テ拿破侖ニ屈服スル者唯遜讓自守リ其ノ安息ヲ取ルノ

ミニアラサルハ固ヨリ判然タリ心常ニ其ノ威赫恐喝ノ勢焰ヲ厭ヒ好
機ノ會スルヲ待テ之ヲ驅除セントス乃今ノ時ヲ以テ乘スヘキノ機ヲ
得タリト爲セリ而シテ拿破侖ハ則西班牙國ニ留リテ爲ス所アラント
ス

紀元一千八百九年春テロールノ民謀反シウエストファリヤ國ノ民其
ノ王セロムヲ驅逐ス世ノ傳フル所ニ據レハ普魯士國ノ如キハ拿破侖
ニ在テ初時ノ勝戦ナクハ其ノ弊ニ乘シ必當ニ澳地利ノ軍ト合從シテ
佛國ヲ撃ツヘシ然ルニ佛帝直ニマドリッドヨリ還リグラントアルミ
一即帝ノ親兵ヲ引テ日耳曼ノ中央部ニ突入セリ

拿破侖累ニ進テエクムール及エッスリンノ地ニ勝テ再維納府ヲ畧有
ス紀元一千八百九年第七月六日又ウアグラムノ地ニ戦テ大ニ勝ツ後

拿破侖自和約ノ事ヲ諭示ス此ノ講和ヲ稱シテ維納ノ和ト爲ス此ノ約
ヲ修ムル實ニ紀元一千八百九年第十月十四日ナリ此ノ役佛將ランス
戦死スランス人ト爲リ勇悍大ニ帝拿破侖ノ愛重ヲ得タリランス交戦
スルニ當テ飛丸來テ兩脛ヲ貫ク是ニ於テ竟ニ起キズ拿破侖哀惜ノ情
己ム能ハスト云フ今ヤ歐洲陸地再拿破侖ノ威力ニ劫服セリ羅馬法王
嘗テ拿破侖ニ對シテ不遜ナルコトアルヲ以テ卒ニ法王ノ位ヲ褫ハレ
佛國ノ將ヘルナドット拔テラレテ瑞典國王位ヲ繼嗣セリ

拿破侖ノ婚ヲ擇フヤ歐洲名族故家ト輒結親セリ又深慮スル所有テ其
ノ夫人シヨセフイント離婚セリシヨセフィンハ嘗テ拿破侖ノ大ニ愛
顧スル所ナリ而シテ忽出ダシテ更ニマリーールウィーズヲ娶ル此ノ女
ハ澳地利帝第二世フランシスノ女ナリ

拿破侖一ノ奇想ヲ構出シテ之ヲ欸接シ敢テ尋常ノ舊儀ヲ蹈マズ欸接トハ婚禮通常ノ儀式ヲ云フ茲ニソワソン近傍ニ一騎士アリ其ノ衣服儀容高貴ヲ表スル者無シ行テ一馬車ノ走ル者ニ遇フ是即妙齡新后ノ馬車ナリ騎士少シク行過シテ復還リ馬ヲ停メ車内ヲ諦視ス斯ノ人ハ誰ソ即拿破侖ナリ馬車乃戸扇ヲ開ク拿破侖乃入テ婚禮ヲ修メ新婦ト駢坐シテ語笑ス其ノ親睦ノ情ハ其ノ先后ト和好スルカ如クニシテ尤厚シ新后謙德美色容止舉動專淳樸ヲ主トシ拿破侖ヲ愛慕スルコト甚深ク一ニ其ノ情意ヲ悅ハシメ言フ所ニ從順シテ一和同心ナルカ如シ

拿破侖ノ閨門ニ入ル舉動甚端嚴ニシテ后ヲ遇スルコト極テ親切温和ナリ禮儀ニ心ヲ用井ル者ト爲ス其ノ平日定限ノ課程アルニ當リテハ

猶其ノ飲食スルヲ忘レテ時晷ノ移ルアリ后ノ書ヲ讀ミ或ハ婦工ヲ取テ止マサルトキハ甚不樂ノ色ヲ見ハセリ

而ルニ皇后マリールウィーズ自帝ノ衛兵ヲ存恤シ舉止周詳ナルコト高貴ノ女子ノ如クナラサルヲ以テ傍人大ニ之ヲ驚異ス紀元一千八百十一年第四月二日恐ラクハ三月二十日ノ誤ナランヲ以テ一子ヲ産ス即之ニ授クルニ羅馬王ノ號ヲ以テセリ

第二百三篇

魯軍不幸ニシテ敗ヲ取ルモスコー府ノ燒夷及クランドアルミーンノ衰滅

魯帝兵事ニ於テ聲名ヲ求ルノ心大ニ盛ナリ而シテ拿破侖ノ盛名ヲ忌惡ス乃自其ノ強ヲ負ミ世曾テ未之ニ服セサルモノアリ即拿破侖ト其

ノ優劣ヲ決センコトヲ要シ紀元一千八百十一年大ニ兵備ヲ設クルナ
リ

拿破侖蚤ク之ヲ覺リ敵兵ヲ本土ニ受ルヲ欲セズ乃先ナテ之ヲ征セン
ト欲シ即紀元一千八百十二年第六月二十二日ヲ以テニエーメン河岸
ニ到リ魯國ニ對シ戰端ヲ起スヲ公告ス第六月二十四日ヲ以テ魯國ノ
界ヲ侵シ其ノ沿道ノ市街ヲ掠略スルコト少ナカラズ遂ニモスコー府
ニ進入セリ此レ往時魯國ノ首府ナリキ

紀元一千八百十二年第九月七日ヲ以テ拿破侖大ニ魯國ノ兵トボロテ
イノ邑 モスコー近傍ニ在リニ戰フ兩軍勝負未決セス俄頃ニシテ魯軍兵ヲ退ケ
モスコー府人ナキカ如シ第九月十四日ニ及テ佛軍モントザルヴコー
シヨント稱スル所ノ丘陵ニ達セリサルヴユーシヨンハ即救援ノ義ナ

リ此ノ稱アル所以ハモスコーヲ目撃スルハ此ノ山丘ニ在ルヲ以テ土
人之ヲ尊敬シテ神聖ノ如クスル者ナリ

佛國既ニ此ニ據ル前ニ當テモスコー府アリ府中ニ數個ノ高塔アリ宮
殿巍然層樓相望ミ園庭盛麗花卉滿開銅造屋背ノ半球形ナルハ太陽ニ
映シテ其光爛々タリ而レトモ府人悉ク退避スルニ因テ境中殊ニ寂寂
タリ拿破侖心ニ謂フ此ノ府中ノ諸有司貴族及富豪ノ士民等必相俱ニ
來リテ降ヲ請ハント然ルニ終ニ斯ノ如キ形情ヲ見ズ

拿破侖此ヲ以テ躊躇スルコト二時間而シテ後始メテ一新報ヲ得タリ
此ノ府民悉皆遁シテ口中ノ人屋一人ノ遺留スル者無シト是ニ於テ
令シテ兵ヲ進メ全軍直ニ府ニ入ル府中寂寥唯廣漠タル原野ノ如シ各
見テ驚異セサルハナシ乃入テ之ニ據ル

斯ノ如ク寂寞ノ境ニ亦久シク居ル能ハス先ニ府宰道避ノ際ニ當テ數十處ニ火ヲ點シ之ヲ焚キ盡サシテ謀レリ府中皆木造ノ房屋ナルヲ以テ火焰ノ延燒スル瞬間ニシテ撲滅スベカラサルニ至ル亦驚愕スベシ

是ニ於テ佛軍急ニ火ヲ避テ退去セントス事亦急遽ニ出ツ時ニ帝拿破侖ハ府ノ中央ナルクレミソンニ居ル此ノクレミソンハ周圍無數ノ屋房重疊聯合シテ恰一市街ヲ爲スカ如ク其ノ四方ハ繞ラスニ重大ナル石壁ヲ以テセリ此往日魯帝ノ住セシ所ナリ

其ノ猛火ノ勢益熾ニシテ居ル所ノクレミソンニ及ハントス將士退避セシコトヲ請フ拿破侖乃終ニ此ヲ去ル途上亦險艱ナリ市街巷衢皆悉ク炎焰トナリ空氣火熱ヲ帶ヒ鬱蒸薰灼シテ人復氣息スヘカラズ拿破

破命退去スルコト三里許ニシテ纔ニ休息スルヲ得タリ而シテ府中火滅セサルコト四日餘夫ノ數百年建築造營スル所ノ巨構瞬間ニシテ灰燼ニ屬セリ

此ノ月二十一日ヲ以テ佛軍再モスコ―府ニ入ル而シテ其ノ府民ノ還復ヲ勸説スレトモ府民之ニ從フ者ナシ是ニ於テ拿破侖自謂フ魯帝アレキサンドル講和ヲ諾スルアラント即自書シテ之ヲ魯帝ニ贈レリ然レトモ魯帝一言ノ之ニ報答スル無シ

又更ニ魯將ニ説クニ講和ノ議ヲ以テス魯將之ニ答ヘテ曰ク魯國ノ例斷シテ境内ノ敵兵ト商議スルコトヲ許サスト今倉庫既ニ火シ兵ニ見食ナク冬寒將ニ至ラントス魯軍大ニ其ノ機ヲ得佛軍ノ道路ヲ拒絶セント欲シ之カ備ヲ爲セリ

是ノ時佛軍殆窮困シ速ニ此ノ地ヲ退去スルノ外更ニ安然ノ策ナレ乃
第十月十八日竟ニモスコークヲ去ル佛軍退去ノ時其ノ記中ノ專驚慌忽
遽ノ情永ク世ノ話柄ト爲レリ佛軍ノ歸途ハ公路ヲ取り捷徑間道ヲ求
メサルヲ以テ糧食空乏シテ爲ニ餓死スル者アリ又寒候蚤ク至ルニ因
テ人々凍縮シテ更ニ酸辛ヲ取ルアリ

魯國哈薩克騎兵ト稱スル者アリ其ノ勇猛ナル猶マメリユークス埃及國王

ノ騎兵ニ髣髴メリ悍猛ナル一騎隊トス此ノ哈薩克騎兵佛軍退去ノ時

ニ乘シ其ノ兵ノ散隊ヲ困死セシメ佛國ノ人馬等爲ニ暴殺セラル者

千數ニ及ベリ

然レトモ兵士等帝拿破侖ノ英才及福運アルヲ信シ且帝ト苦樂ヲ相共
ニスル甚久シキヲ以テ肯テ其ノ英氣ヲ挫カズ乃拿破侖第十二月四日

ヲ以テ樞ニ乘シテ郷路ニ向ヒ同月十八日竟ニ巴里府ニ還ルコトヲ得
タリ

帝拿破侖ノ歸途ニ上ル兵士此ノ事ヲ聞テ大ニ銳氣ヲ挫ク者アリ而シ

テ軍律亦悉ク廢棄シテ收メス兵士等皆唯一身ヲ存センコトヲ欲ス第

十二月十二日ニ及テ殘兵始メテコッフノーニ達ス此等ハ六月前ニ在

テ此ノ地ヨリエニーメン河ヲ渡リシモノナリキ

グラント、アルメーノ兵氣乃復往日ノ如キ者ナン先ニ征戰ノ時四十萬

ノ兵士アリ而シテ今殘ル所ノ者僅ニ五萬ニ及ハズ其ノ軍裝ニ至テハ

代フルニ婦人ノ絹上衣或ハ其ノ自拾ヒ得ル所ノ襪布ヲ以テヌ又或ハ

赤脚ニシテ鮮血ヲ流スアリ或ハ鞋ニ代フルニ汚穢ノ布ヲ束テテ其ノ

脚ヲ保護スルアリ悽愴ノ狀實ニ言フベカラズ

第二百四篇

佛國敵兵ニ攻畧セラル及拿破侖帝位ヲ辭スルコト

佛國既ニ數萬ノ精兵ヲ失フコト斯ノ如シ再之ヲ充備センコト亦難シトス然レトモ紀元一千八百十三年ノ春ニ當テ最強勇ノ兵ヲ選テ日耳曼國ニ進入ス時ニ普魯士國民大ニ憤勵シテ之ヲ拒ク瑞典國亦拿破侖ヲ抗禦スルヲ以テ公告スルニ及ヘリ

拿破侖ノ豪氣猶凜然トシテ屈スル所ナク兵事ニ周旋スルコト益勤ム紀元一千八百十三年第五月二日兵ヲ帥井テ魯普ノ兩軍ナルーツセンニ擊破シ大ニ之ニ勝ツ同月二十日二十一日又バウツノセンニ戰テ連ニ之ニ勝ツ是ノ時澳地利帝自介シテ和議ヲ謀ル是ニ於テ和約ノ條款ヲ商議セン爲メプロキューニ會ス是ノ時拿破侖敵國二帝ノ言フ所ヲ

聽カス約竟ニ成ラサルニ至ル

是ニ至テ澳國合從ノ列國普魯結黨シテ佛國ヲ拒クノ狀アリ是ニ於テ

紀元一千八百十三年八月二十六日拿破侖三國ノ兵ヲドレスデン

日耳曼國

ノ一ニ擊破ス此ノ時拿破侖鬼神ノ如キ威力ヲ以テ一時ニ全歐洲ヲ平

定セシモ復終ニ敗亂シテ各土寧處スルコトナキニ至レリ即群寇各所

ニ蜂起スルアリ因テライプシック

日耳曼國ノ一都

ニ於テ連戰皆破レ兵ヲ引

テ退カサルヲ得サルニ至ル時ニ同年十月十九日ナリ

然レトモ拿破侖武威全ク盡キズ茲ニ三十萬ノ大兵ヲ募集セリ佛國革

命ノ變ヨリ今ニ至テ國勢恰演戲場ノ如ク幾變セリ乃勁敵ヲ四方ニ受

ケ爲ニ侵襲セラル者亦衆シ十五萬ノ魯軍路ヲ瑞西ニ假テ佛國ヲ侵

シブリューヒエルハ普兵十三萬ヲ引テ途ヲ日耳曼ニ取テ佛國ニ入ル

拿破侖ノ舊友ベルナドットト云フ者瑞典ノ兵十萬ヲ以テ和蘭口ヨリ佛國ニ突入シ英將ウェルリントンノ領スル所ノ兵西班牙ヨリ佛國ヲ攻ム各國斯ノ如キ大兵ヲ以テ拿破侖ニ迫レトモ拿破侖蓋世ノ雄アリ猶其ノ勇氣ヲ奮ヒ其ノ勢弱少シモ退減セス歐洲人皆仰瞻シテ其ノ雄ニ服セサルナシ拿破侖深ク敵ノ計ル所ヲ度リ謂フ其ノ結局必大ニ成立スル所アラント而シテ心復自疑ハス

茲ニ講和ノ議再起レリ而シテ復竟ニ成ラヌシテモンマルトルノ阜丘ニ於テ一大戰アリ其ノ戰酣ナルニ及テ巴里府ノ兵防禦術盡キ敵兵之ヲ蹂躪セリ紀元一千八百十四年三月三十一日ヲ以テ魯帝アレキサンドル普王フレデリック入テ巴里府ヲ陷ル

魯帝普王俱ニ公告スルニ佛國王位ヲブルボン王統ニ復センコトヲ以

テセリ此ノ時拿破侖殘兵ヲ收集シテフオーンテンブロート云フ地ニ在リ其ノ麾下尙深ク拿破侖ニ心服シテ再三呼躍シテ戰ハント欲スルノ言アリ首將長官等論シテ戰フモ亦利ナシト爲シ言竟ニ行ハレヌ

合從ノ列國一齊ニ公告スルニ向來拿破侖ト共ニ事ヲ謀ルベカラザルヲ以テセリ拿破侖乃帝位ヲ辭シ其ノ子ニ讓ラント欲シ紀元一千八百十四年四月ニ及テ傳位ノ典ヲ修シ自退ク而シテ其ノ欲スル所竟ニ成ラズ

同盟列國建議シテ拿破侖ヲエルバ島ニ竄流ス拿破侖島ニ在テ尙帝號ヲ擁シ之ニ關涉スル萬機ノ光榮ヲ保持スルヲ得タリ而シテ又海陸二軍ヲ總轄セリ之ヲ舊帝國ノ盛大ニ比較スレハ十分ノ一ナラス此ノ島徑約六十里英里其ノ人口約一萬二千ニ過キス

拿破侖是ニ於テ命ヲ上天ニ委シテ決然トシテ島ニ赴ケリ發スルニ臨
テ積年愛顧スル所ノ士ニ別ル、實ニ心碎ケ膽裂クルノ思切ナルコト
言フベカラス是即世ニ著名ナルガルドアンペリヤール即近衛兵ナリ
紀元一千八百十四年四月二十日ヲ以テ精兵ノ存スル者ヲフォンテン
フローノ大庭ニ召集シ拿破侖自其ノ將ヲ抱擁シ鷲旗ヲ把リテ相語ル
少時ニシテ發程セリ群士爲ニ悲嗟涕泣セサルハ無シ此ノ一段悽涼ノ
景狀實ニ天人ヲ感動セシメタリト云フ

第二百五篇

巴里府人民ノ記

同盟列國ノ兵巴里府ニ屯集ノ時ニ當テ府下ノ情景實ニ奇觀ト爲スニ
足レリ魯人澳人及シレヤノ砂漠ヨリ至ル所ノ蕃民異種來會シテ此ノ

府内ニ充滿シ宛一大陣營ノ如シ

市坊各所ニ營ヲ結ヒ兵人戸コトニ供饌ヲ理ムルアリ或ハ怪異ノ衣服
ヲ洗濯スルアリ壯麗ナル庭園ニ軍馬ヲ繫クアリ美樹ノ皮ヲ剝刮シテ
殺風景ノ狀アリ或ハ各處ニ軍器兵具ヲ堆積シテ丘陵ヲ爲スアリ野蕃
種族ノ弓箭長鎗ヨリ開明國人ノ長短銃砲刀劍等ニ至ルマテ各種ノ物
品雜然タリ

巴里府人民ニ至テハ靜寂トシテ安堵スルコト實ニ感スルニ足レリ時
有テ敵軍ノ砲聲轟々トシテ耳ヲ貫クモ尙且本土ヲ離ル、ノ色ヲ起サ
ス此拿破侖ノ英傑ヲ依賴シテ然ルナリ今敵兵ノ旣ニ府門ヲ擊破シテ
突入スルニ及テ尙夷然トシテ憤惋ノ色ヲ見ハサズ但浮簿ノ人情昨日
ハ拿破侖ノ長生ヲ祈ルト祝シ今日ハ第十八世路易ノ長生ヲ祈ルト祝

セリ

行樹樾道及公園等依然タル好景ヲ呈シ舊觀ヲ損スルコト無ク猶一个ノ敵兵ノ在ラサル者ノ如シ行樹ノ森列セル者ハ巴里府ノ周邊ヲ環ル廣キ樾道ナリ此第十世路易ノ造作スル所ニシテ嘗テ藩牆ヲ毀壞シ濠塹ヲ填メテ往來ノ大道ト爲セシ者タリ此ノ藩牆ハ古昔巴里府ノ寇ヲ防ク所ナリ

巴里府民ハ好テ家外ニ遊歩ス天氣好晴ニ臨テハ男女閑暇ヲ得ル者互ニ群集シテ行樂ス斯ノ如キ閑遊ノ人ハ無量ノ快話奇談ヲ爲シ或ハ勝地ヲ散步シ風烟ヲ望テ時ヲ送レリ傀儡走索戲滑稽家ノ如キモ均シク會集シテ奇觀妙術ヲ爲スアリ

夫大都會ノ盛ナル斯ノ如キノ繁華ナルモ皆度外ニ擲棄シテ更ニ人ノ

其ノ權理ヲ妨害スル者ナシ是ニ於テ佛人ノ禮讓ノ名アル知ルベシ此ノ禮讓アル俗習徹上徹下皆是ナリ試ニ其ノ一ヲ言ハン汲者ノ水ヲ運搬スルニ疊石路ヲ過キテ誤テ木匠ニ水ヲ濺ケハ必其ノ水桶ヲ卸下シテ之ヲ謝ス木匠ハ汲者ノ通路ヲ遮防スル所ノ器具ヲ收メテ曰ク是我ノ過ナリ我宜シク其ノ罪ヲ謝スヘキナリト

第二百六篇

第十八世路易王位ニ進メラル及拿破侖セルハ島ヨリ還テ佛國ニ入ル并ニ佛ノ土民拿破侖ヲ待遇スルノ情態

委員總會務メテ人民ノ爲ニカヲ盡サント欲シ第十六世路易ノ弟ヲ王位ニ進メンコトヲ謀レリ此ノ人已ニフロヴァンス伯ノ稱ヲ以テ前條ニ説ク所ノ者ニシテ天性善良ニシテ心術正直信厚ナル人タルコト前

ニ述ル所ノ如シ且文學ニ於テ亦頗練達セリ而ルニ衆庶ヲ治ルニ至テハ其ノ器量才畧凡庸ノ人ニ異ナルコト無シ

第十八世路易ノ王位ニ即カントスルニ當テシヤルトル即君主權限條例ニ據リ政ヲ執ラントトテ要ス其ノ條例ニ於テハ王ノ權内ニ制限アリテ人民ノ權利アルベキ條理確然トシテ記載セリ五月三日ヲ以テ路易禮ヲ正クシ儀ヲ整ヘテ巴里府内ニ入ル

第五月三十日ニ及テ佛國乃歐洲諸國ト條約ヲ結ヘリ而シテ佛國ノ動亂革命前ト殆相伯仲ス是人民所謂グラントナシ大國民ノ稱號ヲ欲スルナリ是ニ於テ佛國人民ノ勢諸國王及王路易共ニ俱ニ盡力苦思シテ始テ安寧ニ復スルヲ得タリ

佛民王路易ノ品行善良ナルヲ顧思セス皆謂フ王ノ敵タル者暗ニ拿破

命ヲ指ス

勢日ニ熾ニシテ王信義ヲ人民ニ盡スト雖隨テ復敗滅ニ歸スヘシ而ルニ王路易ノ心前政ヲ掃盡セント欲シ機ヲ伺ヒ寺邑ヲ還復セシコトヲ望ムニ在リ其ノ寺邑ト稱スルハ國會議院ノ曾テ之ヲ沒收シテ人民ニ頒與セシ所ノ者ナリ是ヲ以テ人心恟々氷淵ノ想ヲ做シ大ニ疑念ヲ生スルニ至レリ夫佛國ノ人民久シク擾亂ニ際シ平穩ナル能ハズ又嘗テ他邦ト戰鬪シ曾テ敗屢ヲ取ルコト無キニ今合從列國ニ擊破セラレ且人民ノ惡ミニ依テ放逐セシ所ノ者ヲ王位ニ進メラルヲ以テ人皆不滿ノ意ヲ抱カサルハナシ

舊兵士等英雄拿破侖ノ英風ヲ欣慕シ時ニ臨ミ感ニ觸レテ哀惜ノ情ヲ起サ、ルハ無シ此其ノ驥尾ニ附テ英名ヲ得タルヲ以テナリ是ニ由テ士官等ノ意皆謂フ往時拿破侖ニ服從スル時ノ舊套ノ持論ハ今日政府

ニ在リト雖採用スルコト無カルヘシ
 夫ノ兵士等ノ欣慕スル所ノ情ヲ滿テントスル期乃至レリ紀元一千八百十五年三月一日ヲ以テ拿破侖エルバヲ發シカンスノ地ヨリ上岸ス而シテ其率ヲ來ル所ノ兵一千ニ滿タズ拿破侖上岸ノ時一戰シテクロノーフルノ都府ヲ畧取ス此ノ大都ノ守兵ヲ管領スル大將ハ王路易ニ於テ忠節ノ臣タリ都下ノ防禦甚嚴ニシテ守兵亦頗衆シ
 守兵將令ヲ奉シテ兵士ヲ都城牆壁上ニ登ラセ銃砲ヲ整理シテ將ニ火ヲ點セントス時ニ拿破侖ノ從士近ク都城門ニ及ヘリ都城ノ兵砲擊ノ令ヲ傳フ而ルニ忽焉トシテ一聲天ニ轟クノ下拿破侖ノ萬歳ヲ賀スルアルヲ聞ク此皆都兵ノ爲ス所ナリ
 而ルニ守將門鑰ヲ持シテ放タズ是ニ於テ都民等各斧鉞ヲ提テ都門ヲ

擊碎シ拿破侖ニ謁見セントシテ相競テ走り出ツ途ニシテ拿破侖ニ會フ蟻集ノ群民乃各拜跪シ或ハ手ヲ握リ或ハ膝ヲ擁シ脚ヲ抱キ愛慕スルコト父母ノ如シ

第二百七篇

同盟列國再佛國ト相寇ス并ニワートルローノ大戰

拿破侖進テ佛國ニ入り漸次巴里府ニ達ス復一人ノ抗拒スル者無シブルボン家及之ニ黨與スルモノ此ノ事ヲ聞テ愕然トシテ色ヲ失セリ王弟モッシューエガリテーノ子オルレヤン侯及前ノカルトレッヌ侯タル者都テ三人出テ兵將ヲラント請ヒ即レヨンノ地ニ發セリ
 レヨンノ人蚤ク己ニ拿破侖ニ降レリ而シテ兵卒等其ノ情ヲ以テ士官等ノ意見如何ト問フ士官ノ意兵卒ノ見ニ同シク即答フルニ拿破侖ノ

麾下ニ属スルヲ請フ

茲ニ一士官ノ身數所ノ創痍ヲ被リ數枚ノ賞功牌ヲ佩フル者アリモッ
シユ一問テ曰ク汝勇悍ノ士當ニ我王ノ爲ニ萬歳ヲ唱フヘシ士官答テ
曰ク汝ハ汝タレ余ハ拿破侖ノ萬歳ヲ唱フヘシ世豈其ノ父ト戰フ者ア
ランヤト

拿破侖ノ人望ヲ得ル斯ノ如シ之ニ降ル累々トシテ絶エス第三月二十
日ニ及テ拿破侖進テ巴里府ニ入ル路易己ニ巴里府ヲ去ル其ノ從フ者
唯士官數人ノミ其ノ他悉ク拿破侖ニ從ハンコトヲ欲ス文官ニ至テモ
亦皆然ラサルハナシ

時ニ拿破侖佛帝ノ位ニ復シ之ヲ各國ニ公告センヲ謀ル然ルニ各國相
議シテ之ト與ニ和親スヘカラサルヲ盟ヘリ是ニ於テ諸國互ニ佛國ヲ

攻ムルノ備ヘテ爲セリ

第六月初旬ニ及テ英軍普軍合從シテブルツセルノ近傍ニ出テ陳ス
其ノ大將タル者ウエルリントン及マルシヤルブリユヒエル等ナリ拿
破侖乃兵十五萬ヲ率井テ兩軍トワートルローニ戰フ拿破侖大ニ敗ル
時ニ紀元一千八百十五年第六月十八日ナリ多年戰勝攻取ノ功烈忽一
夢トナリテ消滅セリ

拿破侖戰敗レ走テ巴里府ニ還ル時ニ六月二十日ナリ二十九日ニ及テ
ロツシエフオール 佛國ノ一港ニ赴カントス此脫シテ米洲聯邦ニ逃遁セン

ト欲スルナリ同年七月七日同盟列國復巴里府ヲ陷レ翌日第十八世路
易再巴里府ニ還ル

佛國人民ヲ導ク爲ニ設立スル所ノ法前年ニ比スレハ甚苛酷ナリトス

前年ニ施行スル所ハ頗温和ニシテ親民ノ意アリ今其ノ國勢俄ニ一變
シ外兵ノ佛國ニ留帶スル數年本土ノ政ニ至テモ亦之ニ委任セリワ
トルローノ軍費ハ悉ク佛國ヨリ償ハシメ諸城堡ハ皆同盟列國ノ所轄
トナル

佛民ノ從來傲然トシテ世ニ驕誇スル情態今ハ復有ルコトナシ共和政
國ノ世ニ當テ繪畫肖像等以太里和蘭其ノ他諸國ヨリ收集シテ久シク
ルーウル宮ノガレリー
繪畫肖像彫琢物其ノ他名
工品等ヲ集藏スル所ナリニ藏畜スル珍寶悉ク
其ノ舊主ニ歸セリ

第二百七篇

拿破侖護送セラレテサント、エレイン島ニ至ル及其ノ死亡

拿破侖ノロッシェフオール港ニ達スル港口ニ英國艦隊ノ防守スルコ

ト嚴ナリ拿破侖乃心意ヲ決シテ私ニ謂フ危ヲ蹈ミ險ヲ冒シ逃レ得ハ
則好シ若シ然ルコトヲ得ズハ囚虜ノ辱ヲ取ラン自英國ニ投シ其ノ民
ニ因テ一退隱ノ地ヲ求メンニハ如カスト

第七月十五日乃英國ノ船ニ乗シ二十四日行テ英都ニ達セリ乃拿破侖
意料スル所ノ外ニ出テ英國ノ之ヲ待ツコト甚無狀ナリ直ニ一船中ニ
禁錮シ一人ノ交通スルコトヲ許サス

英國ノ士集議スル所アリ乃拿破侖ヲセント、ペレナ島ニ押送スセン
ト、ペレナハ大西洋ノ中央ニ位スル小島ナリ地唯巖石多シ拿破侖孤
島孤囚ノ人ト爲リ竟ニ此ニ終レリ此ノ島ニ到ル時紀元一千八百十五
年第八月六日ナリ

島中監守ノ者最嚴密ナリ濱海各所衛兵陳列シテ晨昏怠ラス内ニハ則

監兵常ニ之ヲ圍守ス又兵艦アリ島ノ周地ヲ巡リ外船ノ來リ泊スルアレハ船内ヲ糺問シ他事有テ繫船スル者モ亦嚴ニ之ヲ看守セリ一島内外監守甚嚴ナルコト斯ノ如シ而ルニ尙拿破侖或ハ羅網ヲ脱シテ再佛國ニ還リ至ランコトヲ望ム者亦甚衆シ或ハ一旦復此ノ島ヨリ脱シテ佛都ニ還ルコトヲ得ハ往昔其ノエルバ島ヨリ歸ル日國民ノ喜躍シテ之ヲ迎フルト其ノ情同シカルヘシ是等仰望スル所ノ一黨拿破侖ノ不幸ニシテ死スルヲ以テ素志遂ニ灰セリ其ノ死セル實ニ紀元一千八百二十一年第五月五日ナリ其ノ死スルノ後黨與ノ意一ニ其ノ子ニ在リ其ノ母ハ則拿破侖ノ后ト共ニ澳地利ニ還ル所ノ者ナリ

此ノ子ライヒシユタット侯ト稱セラル其ノ品行ノ如キハ世知ル所稀

ナリ其ノ教育ヲ受ルノ始メヨリ務メテ貪名ノ心ヲ抑壓セリ惜哉其ノ長シテ人ト成ルニ及テ死セリ

茲ニ佛國政府ニ在テハ大ニ力ヲ勞シ其ノ前主拿破侖ニ就テ民想ヲ起サシムル所ノ者悉ク瓦解セリ即ブラッスワンドーム圓柱上ヨリ其ノ肖像ヲ卸下シ其ノ名姓ノ各所ニ在ル者亦盡ク削除セリ

然レトモ拿破侖ノ英智才畧及其ノ大威權ノ世ニ存スル者ハ千歲不朽ニシテ磨滅スヘカラス道路宮室ノ美麗及津梁橋架ノ壯堅ナル悉ク其ノ創造スル所ニシテ今猶存セリ其ノ最貴重ニシテ記功碑ト稱スヘキ者ハ其ノ編修スル所ノ律法書ナリ此書ハ素稱シテコード、ナポレオン即拿破侖律法書ト曰フ後其ノ目ヲ變シテコード、シヴィル即民律法書ト爲セリ今日佛國律法ノ基本トシテ奉スル者ハ即拿破侖ノ律法書ヨ

り出テタリ

第二百九篇

マルシヤル子ノ死并ニラヴァルレット脱獄

紀元一千八百十五年ウァートルローノ戦ニ拿破侖ノ黨與皆其ノ罪ヲ赦サル而シテ獨子ラベドエール及ラヴァルレットヲ刑セントスラベドエールハ嘗テグレノベル市ノ軍將ニテ拿破侖ノエルバ島ヨリ佛國ニ復ル日其ノ黨援第一人タリ是ヲ以テ按問セラレ遂ニ死刑ニ處セラレタリ

マルシヤル子軍官ノ名ニシテ監世人之ヲ稱シテゼブレーヴスト、オ

フ、ゼブレーヴ即勇悍中ノ勇悍ナル者トス是拿破侖ノ將帥中最卓越スル所ノ者ニシテ人民之ヲ愛慕崇敬スルヲ拿破侖ニ亞ケリ然ルニボル

ボン家ノ復スルニ當テ帝族大ニ子ヲ愛撫シ其ノ拿破侖ト戦フニ當テ子ニ將帥ノ任ヲ授ケリ

子既ニ其ノ任ヲ受ケテ巴里府ヲ去ル日王路易ニ約シテ曰ク臣直ニ軍ニ赴キ帝拿破侖ヲ捕フルコト野獸ノ如クニシテ之ヲ巴里府ニ監送セント而シテ子拿破侖ト兵ヲ接スルニ當テ其ノ誘導ノ言ニ率カレ帝ヲ思フノ情復發セリ乃其ノ帥非ル所ノ兵ト相約シテ復拿破侖ニ歸セリ

子ノ囚ハルニ及テ王族其ノ罪ヲ糺シテ死刑ニ處ス子ヲ死刑ニ處スル其ノ事極メテ秘セリ此政府ノ懼ル所アルヲ見ルニ足レリラヴァルレット少年ノ時ヨリ拿破侖腹心ノ人ニシテ拿破侖ノ夫人即ジョセフィンノ姪ヲ娶ル者ナリ斯ノ人王路易ノ朝ニ在テ一官職ナク拿破

命エルバ島ヨリ巴里府ニ還ルニ及テ書信局指揮職務ノ任ヲ承ケ拿破
命ノ大勝ヲ公報ス

其ノ罪狀ヲ正シ死刑ニ處セントスラヴアルレットノ妻之ヲ憂ヒ往テ
其ノ夫ニ説キ脱セシメントス曰ク請フ假ニ妾カ衣ヲ服シ女粧シテ脱
出スヘシト時ニラヴアルレット獨其ノ妻ヲ遺シテ獄吏ノ殘酷ヲ蒙ム
ラシムルニ忍ヒス未遽ニ之ヲ許サズ

其ノ妻ラヴアルレットニ説クコト再三ラヴアルレット遂ニ其ノ事ニ
從フ死刑ニ就クノ前一日其ノ夜ニ其ノ妻マダム、ラヴアルレット其ノ
女ト共ニ夫ノ獄ニ來リ屢々脱出センコトヲ促カス乃婦人ノ服ヲ着ケ
女粧シテ遂ニ脱シ去ル兵士監守スル者之ヲ知ル者ナシ

ラヴアルレット既ニ出テ竟ニ一所ノ潛匿スヘキ所ヲ得タリ茲ニ著名

ナル一奇事アリ即ラヴアルレットノ獄舎ヲ脱シテ潛伏スル所ノ地ハ

當時佛國相ノ邸内ノ一室ナリラヴアルレット此ノ室内ニ匿ル、コト

三週日國相ノ夫人ハ則曾テ佛國タル国家暴亂人倫道絶ニ戰
慄恐懼ノ世ト云ヘル義ニ

ニ遇ヒ死ニ處セラレントシテ幸ニ救助セラレン者タリ其ノ時夫人自

誓テ謂フ妾此ノ恩ヲ報センニハ亦人斯ノ如キ不幸ニ遭遇スル者アラ

バ必死力ヲ極メテ其ノ人ヲ救ヒ以テ答謝スルノミト

今ラヴアルレットノ偶々遁レテ其ノ家ニ匿ル夫人及其ノ夫アレツソン

氏相與ニ喜ヒ厚ク之ヲ待遇シラヴアルレットノ巴里府ヲ脱去スルノ

機アルヲ闕ヒ得ルニ至ルマテ心力ヲ竭シテ之カ地ヲ爲セリ彼ノ獄吏

果シテラヴアルレットノ妻ヲ考掠スルコト酷ナリ妻其ノ苦楚慘毒ニ

堪ヘス羸病シテ殆死セントス

後數年ヲ歴テラヴアルレットノ佛國ニ還ルヲ得ルモ妻狂疾ヲ發シテ精神恍惚トシテ其ノ面ヲ識ル能ハス此ノ婦居常温良愛敬俱ニ至レリ又常ニ夫ノ不幸ヲ痛悼シテ己マス其ノ夫モ亦情意ヲ尽シ愛顧至ラサル所ナシ其ノ嘗テ我ヲ救フノ恩アルヲ以テ特ニ然ルナリ

第二百十篇

佛國朋黨ノ形勢

佛王第十八世路易ノ位ニ在ル艱難多事ノ基ヲ成セリ其ノ國民ノ王ヲ奉戴セサルモ亦明ナリ夫巴里府民ハ王路易ノ氣質薄弱ニシテ信實ナク其ノ衆ヲ統御スルノ才ニ非サルヲ以テ動スレハ拿破侖ヲ引テ之ヲ議セリ王路易嘗テ放逐セラレテ久シク英國ニ留ル其ノ國民ノ優待ヲ感喜シ之ヲ顔色ニ見ハスニ至レリ因テ佛國ノ人民ハ益之ヲ惡ミ憤怒

スルニ至レリ

王路易爾來三色旗

即佛國ノ旗章ナリ

ヲ用ヰルヲ禁シ復ブルボン家ノ白旗ヲ用

ヰシム此ノ令ヲ下ス尤王ノ過失ヲ見ルニ足レリ夫三色旗ハ積年數所ノ戰ニ大勝ヲ得タルノ瑞寶ニシテ廢スベカラサル者タリ而ルヲ今暴ニ之ヲ禁スルヲ以テ愛國ノ民益憤怒ヲ作セリ

王勤王ノ人心ヲ悅ハシメント欲シ曾テ自人民ト誓約シテ行フ所ノ君主權限條例即シヤルトルヲ廢セリ此レ王ノ過失中第一ニ居ル所ナリ勤王家ノ意猶未飽カス常ニ王ヲ追劫シテ人民自主ノ權利ヲ束收シ往日王家ノ權ヲ恢復センコトヲ要セリ

此ノ勤王家ニ主タル者ヲアングレーム侯及其ノ夫人ト爲ス此ノ夫人ハ第十六世路易ノ女ニシテ曾テ拘囚セラレ後免サルヲ得タル事等

己ニ前ニ説ケリ侯ハアルトワ―伯ノ男ニシテ今王第十八世路易子ナ
 キニ因テ王ノ假嗣子トナルヘキ者ダリ
 茲ニ勤王黨ノ威勢益強盛ニシテ出板自由ノ權アルモ亦之ヲ禁壓シ專
 政府ノ威力ヲ張ランコトヲ務ム
 夫君主權限條例ニ由レハ立法官ハ貴族會院及代理委員會ヨリシテ其
 ノ職任ヲ命セラル代理會員ハ平民ヨリ撰拔セラレシ者ナリ而シテ立
 法官ニ又三黨アリ即中位ノ一黨アリ定論ナク二黨ノ決議ヲ取捨シ其
 ノ善ト爲ス所ノ者ニ與ミス之ヲ稱シテサントルト爲ス中位ニ在ルヲ
 以テナリ勤王黨ハコテゴ―ンヨト稱ス院中右位ニ坐スルヲ以テナリ
 自由黨ハコテドロワ―ト稱ス院中左位ニ坐スルヲ以テナリ
 是時ニ當テ國民ノ心大ニ不樂ナリ王路易因テ大ニ勞思スル所アリ

而シテ偶々西班牙國ノ亂ニ會シ王路易其ノ國事ニ關係シ其ノ國ヲシ
 テ平安穩ナラシメントス

紀元一千八百二十三年ノ始ニ當テ佛國大軍ヲ出シテ西班牙國ニ進發
 ス其ノ軍ニ將タル者ヲアングレーム侯ト爲ス而シテ第五月十日ヲ以
 テ其ノ首府マドリットニ入り進テカラツシ

西班牙沿
海ノ一都

ニ達セリ第十一

月二日アングレーム侯ハ凱陣ノ式ヲ爲シ復巴里府ニ旋軍セリ斯ク
 武威ヲ以テ西班牙國ヲ鎮定スルコト有リ大ニ人民ノ心ニ滿テリ

在朝ノ嬖臣此ノ事ヲ以テアングレーム侯ヲ讚美稱揚スルニ據レハ讚
 者或ハ信シテ此ノ侯ノ英畧殆拿破侖ニ卓越スル所アラント謂フベシ
 幸ニ此ノ一事差々人民ノ望ヲ慰ムルアルヲ以テ宰臣等隨テ大ニ新法
 ヲ行ヒ王及貴族ノ威權ヲ張ランコトヲ勉ム

宰臣等設施スル所ノ法稍々行ハレ其ノ意ヲ逞スルコトヲ得タリ而シテ今佛朝復古維新ノ始ヨリ己ニ年數ヲ歴其ノ人民ノ穩ナラスレテ動スレハ輒擾亂ヲ起サントスルノ勢モ亦頗挫折スルカ如シ然レトモ其ノ帖服スルハ中等ニ在テ相親ム人ノミ真ニ相悅服スルニ非ズ上下猶政府ニ抗スルノ論說盛ナルハ其ノ情亦察知スヘシ

第二百十一篇

第十世シヤルノ傳及民黨大ニ震フアルシエル國ト戰爭

己ニ說ク所ノ如ク第十八世路易其ノ進退適宜ノ機ニ投スルヲ得タリ此其ノ艱難辛苦ヲ嘗メ自其ノ才智ヲ試ミルアルヲ以テナリ此ノ王ノ時ニ當テ少シク佛國ノ安靜ヲ得タルハ一ニ王ノ誠正ニ依ルカ如シ而シテ紀元一千八百二十四年九月十六日ニ及テ王世ヲ辭セリ是ヲ以テ

佛國ノ大權始テアルトワ―伯ニ歸セリ此ノ伯ハ第十世シヤルト稱スル所ノ者ナリ

王シヤル勤王黨ノ巨魁ニシテ固ク此ノ論ヲ持守セリ王ノ始メテ事ヲ執ル大ニ勤王黨ノ爲ニス然レトモ亦未衆民ノ望ヲ失フニ至ラス曾テ國會議院ニ寺邑ヲ沒收セラレシ者アリ王此等ノ諸人ニ年資ヲ給セリ是ヨリ先キ寺邑ノ人民私有スル所ノ地ヲ一ニ皆收メ取テ之ヲ寺主ニ還サシメントセシニ其ノ民大ニ危懼スルヲ以テ即此ノ制ヲ定メ其ノ人心ヲ鎮定セリ

次ニ施行セシ所ハ出版刊行ノ自由及人民ノ權力上ニ於テ事理ノ合ハサルアリ及王ヲ敵視スルニ至ラシム王ハ王室ノ威權ヲ張ラント欲シ更ニ貴族議院ヲ増加シ人民ノ代議員ヲ廢セリ此大ニ朝廷ニ補益スル

所アラント謂ヘルヲ以テナリ斯ノ如ク宰臣ノ權ヲ強固ニセント欲シ反テ其ノ勢ヲ削弱セリ宰臣等因テ自職ヲ辭シ人民ノ德望アル者ヲ撰舉シ此ノ任ニ當ラシム然レトモ此等ノ人王ト相信親セス紀元一千八百二十九年第八月八日ニ及テ各其ノ職ヲ辭シ去リ更ニ他人ヲ代ヘテ此ノ任ニ充ツ其ノ首長タル者ハ即ジニューール、ド、ボリニヤック公ナリ」ボリニヤック氏ノ稱タニモ猶人民ノ大忌ヲ取ルニ足レリ此會アマリーアントニットヲ擁シ威權ヲ恣ニセルヲ以テナリ時ニ紀元一千八百三十年第三月二日ニ於テ貴族議員人民代議員大集會アリ王會議ニ在テ議スル時人民代議員王ト論議スル所甚激烈ナリ王乃此ノ議會ヲ放解セリ凡議員ノ決定スル所ハ王自恣ニ之ヲ廢斥スルヲ得ス唯放解シテ人民ト再議セシムルノ權アルノミ然レトモ此ノ舉ニ於

テ一モ王ニ利スル所アラス貴族議員ヲ増加スト雖人民代議員モ亦衆多ナルニ至レリ

亞弗利加北部ノ海岸ハ古來野蠻種族ノ居ル所ナリ此ノ蠻民常ニ開化國民ノ其ノ方物ヲ取ウルヲ拒メリ若レ是ヲ強フルアレハ地中海上ノ互市ヲ妨害シ其ノ物件ヲ奪掠シ其ノ餌食ト爲セリ

此ノ強暴ナル蠻俗ヲ破滅セントスルハ米洲合衆國ヲ以テ首唱ト爲ス合衆國其ノ國人ヲシテ其ノ凶暴ヲ被フルコト無カラシメント欲シ爲ニ計畫スルコト久シクシテ其ノ功ヲ成セリ英國モ亦之ニ次テ此ヲ謀レリ紀元一千八百三十年ヲ以テ佛國兵ヲアルジエー都ニ遣ハシ之ヲ侵伐スアルジエー都ハ此ノ海賊蠻民ノ巢窟ノ一ニシテ其ノ都民ハ凶暴貪戾ヲ以テ名ヲ得タル者ナリ

佛國ノ之ヲ征スル大ニ功アリ紀元一千八百三十年第七月四日ヲ以テ
 アルジエー都竟ニ佛國ニ降服ス爾來永ク佛ノ屬地ト爲リテ今ニ及ベ
 リ此ノ征戰ヨリ延テ紀元一千八百四十八年ニ至ルマテ其ノ狀米洲ニ
 於テ印度蠻民ト戰鬪セルト同一般ナリ佛民ノ此役癘毒ニ死スル者兵
 ノ爲メニ死セルヨリ多シトス

第二百十二篇

三日革命ノ起初

佛軍アルジエー都ヲ伐テ戰功アル新報忽巴里府ニ至ル時ニ紀元一千
 八百三十年第七月九日ナリ此ノ新報ヲ得テ宰臣等大ニ人望ヲ得ルベ
 シト時人ノ想像スルアリ而ルニ人民ノ意見ハ則己ニ確定シテ動カズ
 第七月二十六日ニ及テ王法令ヲ傳ヘテ出板ノ自由ヲ止メ又新ニ起ス

所ノ人民代議員會ヲ解キ更ニ議員ノ撰舉ヲ爲セリ其ノ解カル、所ノ
 議員ハ未一會議ヲ經サル者ナリ

斯ノ如キ處分ハ所謂君主權限ノ條例ニ相反スル所ニシテ專上ノ威力
 ナ以テ下ヲ抑壓スルノ意タルコト佛民ノ情ヲ熟知スル者ハ能ク理會
 スヘシ而ルニ王ハ自信シテ禍亂ニ備フルコトヲ知ラス

王及宰臣等危難ノ將ニ身ニ及ハントスルヲ知ラズ其ノ二十六日王田
 獵シテ自遊歡シ宰臣等ハ唯人民ノ外相和スルヲ見テ亦相與ニ頌賀ス
 ルヲ知ルノミ而ルニ人民ノ不平ヲ證スヘキ一奇事アリ即巴里府下ニ
 土寇蜂起シテボリニヤック公ノ駕中ニ瓦礫ヲ亂投セリ

其ノ翌日ニ及テ人心益動搖シテ止マズ街坊ハ守衛ノ兵ヲ遣テ之ヲ監
 守セシメ亂ヲ開クニ至ラサルヲ得タリ第二十八日ノ曉ニ至テ人民大

ニ沸騰シ市街各所ニ蟻集シ頗煽亂ノ勢アリ同日九時ニ及テ忽三色旗
ヲノドル、ダム寺ノ堂閣上ニ掲ケタリ第十一時ニ及テ巴里府廳ノ中堂
ノ屋上ニ國旗ノ風ニ飄ルヲ見タリ

府民等ナシヨナル、カルド國民ノ戎衣ヲ着ケ兵ヲ執テ衛兵ト抗戦スル

コト數次時ニ市房ヨリ放射スル所ノ銃丸雨ノ如ク衛兵爲ニ大ニ挫折
セリ

人民等又屋脊ニ在テ瓦礫木石ヲ取テ衛兵ニ抛ツ又熱湯熱油ヲ灑テ之
ヲ困ム又傳フル所ニ曰ク一貴媛アリ下婢ト共ニ一大洋琴ヲ投レ其ノ
下ニ徘徊スル所ノ守兵ヲ打撃セリト同日ノ夕人民等街坊ノ要衝ニ柵
ヲ列シ徹夜セリ其ノ前日ニ在テハ大小ノ馬車ヲ以テ衛兵ノ通路ヲ遮
斷セリ今又甃石ヲ掘發シテ壘壁ト爲シ木版家具ヲ以テ構造スルコト

頗堅シ

又行樹樾道ノ樹木ヲ伐テ之ヲ街道ニ横タヘ通路ヲ斷ツ防禦斯ノ如ク
嚴ナリ然レトモ衛兵等己ニ前日ノ覆轍ヲ覺リ今ハ其ノ計ニ陷ラス
第二十九日ノ午時ニ當テ王ノ親兵ヲ除クノ外衛兵等皆民黨ニ左袒ス
是ニ於テ將ニ起ラントスル禍亂頓ニ熾消ニ歸セントス親兵ハ即皆巴
里府外ニ放逐セラレタリ唯人民ノ意ヲ用非ル所ハ王ノ身ヲ全クセシ
メントスルニ在ルノミ

第二百十三篇

革命ノ結局并ニラ、ファエット再命セラレテナシヨナル、ガル

ド即國民衛兵ノ監督トナル

此ノ三日革命ノ時ニ會シ民政有司等ノ施行セシ所ヲ説カン茲ニ紀元

一千八百三十年第七月二十七日新會院ニ集合セントシテ人民代理者
 巴里府ニ來會スル者アリ而ルニ先ニ制定スル所ノ法例ニ依ラスシテ
 之ヲ拒メリ二十八日人民代理者相率井テツイレリ—宮ニ赴ケリ
 人民代理者此ノ宮ニ至ル時ニ監官隊將ヲマルモント稱ス代理者乃マ
 ルモンニ陳スルニ人民ノ意王ノ法例ヲ廢止スルニ非サレハ必服從ス
 ルコト無キヲ以テスマルモン之ヲ諒察シ國家危急此ノ極ニ至ルノ因
 由及之ヲ救護シテ安寧ナラシムヘキ所以ヲ書シテ王ニ奉呈ス而ルニ
 王之ニ答フルニ今更ニ新令ヲ下シ兵威ヲ振テ之ヲ拘束センコトヲ以
 テセリ

此ノ議固執シテ破ルベカラズ因テ其ノ結局前ニ説ク所ノ如ク兵士等
 皆王家ニ叛キ去リ在朝ノ宰臣等モ亦各其ノ職位ヲ辭シ而シテ王モ亦

終ニ其ノ法令ヲ廢スルノ令ヲ下スニ至レリ王ノ此ノ令ヲ下ス機期甚
 後レタリ故ニ巴里府民ハ既ニ決議シテ第十世シヤルノ王タルベカラ
 サルヲ唱ヘリ

衛兵巴里府ヲ去テ後乃人民代理者權ニ政權ヲ握リ政府ヲ設立セリナ
 シヨナル、ガルド即國民衛兵ニ至テモ亦再之ヲ置キ大將ヲ、ファエット
 復之カ監督タリヲ、ファエットハ曾テ屢、政廷改革ニ遭遇スト雖其ノ固
 持スル所ノ論ハ自主自由ノ正理ニシテ始ヨリ之ヲ變換スルコト無シ
 昔日レーン、ド、テロル即戰慄ノ世ノ始ニ當テラ、ファエットハ其身ヲ保
 タンコトヲ計テ佛國ヲ出奔セリ時ニラ、ファエットハ所謂自主自由黨
 ノ人タルヲ以テ殆其ノ身ヲ危クス其ノ普魯士國ニ達スルヤ乃捕ヘラ
 レ獄舎ニ拘囚セラル、コト數年即王者ノ權ヲ抑奪セントスルノ寇敵

タルヲ以テナリ夫ヲ、フアエット自信シ自任シテ虐政ノ下ニ居ラス力
ヲ極メテ之ヲ破ラント欲ス敢テ其ノ黨與ノ衆寡ヲ問ハス固持スル所
ノ高節義氣少シク屈スル所ナシ

拿破侖モ亦曾テラ、フアエットノ誠心ヲ感稱セリ曾テ之ニ贈與スル所
アリラ、フアエット固ク拒テ受ケズ今ニ及フマテ竟ニ一ノ職任ヲ奉セ
ズ唯代理者會院ニ在テ人民ノ代議員ニ充ルノミ

市民上下トナク皆ラ、フアエットノ德望ヲ仰戴スル甚深ク其ノ指揮ヲ
受ルモノ皆悦服シテ之ニ從順シ七月二十九日日未沒セサルニラ、フア
エット全ク巴里府ヲ鎮定セリ夫三日革命ノ擾亂ニ際シテ一ノ偷盜剽
劫忿怨私闘ノ起ル無キハ實ニ巴里府民ノ最貴重稱譽スル所ナリ
三日革命ト稱スルハ今説ク所ノ如シ是ヨリ先キ斯ノ如キ一大變ノ俄

頃ニ發リ又俄頃ニ治マルハ未曾テ聞カサル所ナリ茲ニ英國人アリ數
人結隊シテ適意行旅ヲ爲ス其ノ巴里府ニ達セシ時適三日革命ニ際會
ス而シテ其ノ何ノ緣故タルヲ識ラス目ニ唯其ノ内亂ヲ見ルノミ英人
佛語ヲ解セサルヲ以テ其ノ國ニ還ルニ及テ始テ巴里府ニ到ル時乃其
ノ革命ノ際ナルコトヲ知レリ

第二百十四篇

ルウイー、フィリップ王位ニ即キ統治ス、新革命ノ記、第三世拿
破侖ノ傳

紀元一千八百三十年第七月三十日人民代理者議ヲ決シテフルレヤン
ス侯ヲ以テ政廷ノ主宰タラシメント欲シテ之ヲ迎ヘリ而シテ未永傳
不磨ノ稱號ヲ製セス權ニ副都督ヲ以テ之ヲ稱セリ斯ノ新報國內各

處ニ布達シ人民大ニ喜色アリ而シテ三采旗ハ則既ニ掲ケサル處ナシ是ヲ以テ再爭亂ヲ起ス者ナシ乃同年八月二日ニ及テ第十世シヤル及アングレム侯相俱ニ禮ヲ正クシテ其ノ位ヲ辭ス此レ王ノ曾孫當時下、ボルドー侯ヲシテ嗣王タラシメント欲レテナリ

唯此ノ志アリト雖留心シテ遽ニ發セス乃都民既ニ蜂起スル者數千人ラムブリエーニ侵入スヘキ備ヲ爲セリラムブリエート稱スルハ王ノ退去セン所ナリ而シテ王ハ則其ノ未寇スルヲ待タス早ク遁レテ之ヲ避ク此其ノ前一千七百八十九年第八月ノ覆轍ヲ記スルアルヲ以テナリ當時巴里府民蜂起シテヴェルサイエ都ニ迫レリ

第八月十七日ヲ以テ王シヤル英國ニ到リ又進テイゲンボル蘇格蘭ニ至レリ此ノ府往古ヨリホリールトノ宮殿アリ王曾テ佛國ヲ出テ英

國ニ遁ルノ際此ノ宮ニ館セリ今復遁レテ此ノ府ニ至リ再此ノ宮ニ匿ル王後竟ニ墮地利國ゴリトニ没ス時ニ紀元一千八百三十六年第十一月六日ナリ茲ニブルボン即王族ヲ云フ宗族ヲ奉戴シテ勤事セントスル徒尙纒ニ存セリ此ノ徒等ボルドー侯王シヤルノ孫ナリヲ正統ノ君トナシ第五世顯理ト稱センコトヲ欲ス

是ノ時佛國更ニ一政廷ヲ建立セントス而シテ人民ノ共和政体ヲ愛慕スル者甚衆多ニシテ之ヲ惡ム者亦甚少ナカラス此レ昔日ゼ、レーン、オ、フ、テルロル即戰慄恐懼時世ノ殘虐橫恣復此ノ際ニ發出センコトヲ恐ル、ヲ以テナリ

ヲ、ファエット中心深ク共和政体ヲ好ミ米洲合衆國政体ヲ以テ政府ノ至善全成ナル者ト爲セリ顧フニ共和政ノ國体ハ其ノ人民相與ニ統治

スルノ善法ニ通曉シ能ク教育ニ達セサレハ不可ナルヲ理會スヘシ佛國人民ハ猶未此ノ地位ニ至ラス且其ノ世々君主ノ統治制馭タルヲ以テ人民習慣シテ常性トナル今俄ニ自由ノ權ヲ與フルニ至テハ則亦其ノ安寧ヲ得難カラント謂フ

ラ、ファエットハ是ノ意見ヲ固持シテ而シテ其ノ國民務メテ眞個ノ特權ヲ得ント欲シ乃更ニ禍亂ヲ醸シ國家ヲ艱マスヲ喜バス又意フ政体ハ唯其ノ國民ノ幸福安寧ヲ存スルヲ主トス必シモ其ノ名ニ管セズト」是ヲ以テラ、ファエット君民國治立君定律ノ政体ヲ公論シテ意テ人民代理者ニ寄ス此ノ時王位ニ即クヘキ人ヲ論定セントスラ、ファエット敢テ此ノ論ニ與ラス若シ一語ヲ發セハ王冠忽其ノ頭上ニ加フルコトヲ得ヘシ然ルニラ、ファエット曾テ此ノ意思ヲ見ハサス其ノ智謀深遠

ニシテ性行善良ナルヲ知ルベシ

茲ニ一人アリ其ノ人當日論定セントスル所ノ事ヲ以テ其ノ身ニ自有スルカ如シ即之ヲオルレヤン侯ト爲ス斯ノ人佛國人民ノ大ニ尊崇スル顯理、ロ、ガランノ苗裔ナリ嘗テ人ノ教ヲ受テ自主自由ノ理ヲ解セリ昔日革命ノ始ニ在テ人民ニ黨與シ爾來シヤコバン黨ノ暴怒ヲ避ケ遁レテ外邦ニ在リト雖人民ニ抗シ干戈ヲ動カス等ノ事ヲ爲スニ至ラスルオルレヤン侯初メ故國ヲ去テ瑞西國ニ遁レ一學校ニ在テ數學教師トナリ身及二弟ノ衣食ニ給セリ爾後母ヨリ贈ル所ノ物ヲ得テ即去テ米洲合衆國ニ之キ寄寓スルコト數月紀元一千八百年ヲ以テ又去テ英國ニ至リ拿破侖ノ敗亡ニ至ルマテ此ニ留ル

此ノ侯始第十八世路易王ヨリ一軍監督ヲ命セラル而ルニ侯君主權限

條例ヲ主張シ勤王黨ニ抗スルニ因テ其ノ任ヲ免セラレタリ爾來此ノ革命ノ事起ルヨリ今ニ至ルマテ復職事ナシ

第八月九日衆人侯ヲ迎ヘテ王位ニ即カシメントス其ノ王タル復君主ノ舊號タル佛國王ニアラス特ニ佛國人民ノ王タルヲ稱シ人民ノ成立生存ト其ノ權利ヲ得ルトヲ明ニス侯ノ此ノ任ヲ受ル其ノ君主權限條例即國法ニ載スル所ノ條款ハ敢テ踐行セサルナキヲ誓ヘリ時ニ集會院ニ輻奏スル人民數千餘ナリ

時ニラ、ファエット新王ノ手ヲ執リ引テ集會院樓上ニ登ル此ノ樓ハ街

衢即集會院ノ在ル所ノ坊ニ臨テ群民ノ目撃中ニ在リ而シテラ、ファエット新王路

易、フィリップヲ抱キ人民ニ向テ今施行スル所ノ條件實ニ自己ノ嘉納スル所ノ狀ヲ公告シ後自樓頭ニ出テ衆ニ向テ呼テ曰ク余等今日ヨリ

共和政中ノ尤至善ナル者ヲ得タリト

王路易、フィリップ一時民望ヲ得シカ爲メ自其ノ身ヲ投シテ人民眞個ノ利益ヲ謀ルニ任シ又其ノ居ル所ノ地位ニ合スル實ヲ勉ム

王斯ノ如ク苦心煩慮シテ政務ヲ勤ムルヲ以テ佛國大ニ安寧ニ属シ事皆順序ヲ得農商益繁昌ニ至レリ前説ク所ノ佛軍曾アルジェリ亞非

利加洲中南部海濱ノ地ヲ畧取セシヨリ此ノ地ヲ以テ佛國ノ一植民地ト爲セリ其

ノアルジェリノ戰己マサルコト七年ノ久シキニ及ヘリ然レトモ此ノ役ヲ除クノ外王路易、フィリップノ時争亂アルコト無ク世ト共ニ平安ヲ保テリ

此ノ王即位ノ始ニ當テ踐行セシ所ヲシテ永ク變易スル所ナカラシメ上下相共ニ福祉ヲ受ルアルベシ而ルニ其ノ晩年ニ及テ貪戾ノ私情

ヲ逞クシ偏ニ王ノ親族ヲシテ尊大富榮ナラシメ且往昔君主專制ノ權利ニ原ツキ一王統ヲ創立セント欲シ百端意匠ヲ費セリ

故ヲ以テ王ノ爲ス所ノ事業所謂君主權限條例即國法ニ留心スルコト甚了シ難シ又立法官ノ二派ヲ廢レ之ヲ視ルコト玩具ニ異ナラス此ノ一事ヲ以テ王ノ國法ヲ輕視スルノ證ト爲スニ足レリ是ニ於テ人民心其ノ心ヲ安スル能ハス遂ニ其ノ非理ヲ抗論セントシテ衆相會スルニ至レリ

是ニ於テ王驚懼シテ急ニ其集議ヲ破解セント欲シ嚴令ヲ出シテ之ヲ禁止ス王一タヒ此ノ令ヲ下シ乃其ノ覆亡ヲ取ルニ至レリ紀元一千八百四十八年第二月二十二日ヲ以テ人民巴里府ニ於テ一會集ヲ成サント謀ル政府又嚴ニ制令ヲ出スヲ以テ會集スル能ハスト雖巴里府ノ人

民街衢各所ニ蟻集充滿セリ

是等ノ群黨驕然トシテ遂ニ妄動ノ勢ヲ見ハス政府兵力ヲ以テ之ヲ制馭スト雖衆心益激怒シテ直ニ巴里府ニ迫リ譴譁鼎沸街坊交市ノ地忽變シテ戰場ト成ルコト三日夜而シテ危難殆將ニ王ニ及ハントスルヲ以テ王其ノ族ヲ率井テ英國ニ奔ル

茲ニ至テ佛國共和政体ヲ立テ人民其ノ委員ヲ撰任シテ巴里府ニ會シ告ルニ政体制定ノ議ヲ以テス即委員ノ議ニ因テ路易拿破侖ヲ擇テ大統領ニ任ス路易拿破侖乃其ノ任ヲ承ク時ニ紀元一千八百四十八年第十二月ナリ路易拿破侖ハ即勃拿波爾的ノ甥ナリ

茲ニ紀元一千八百四十八年第二月佛國發起スル所ノ革命變動遂ニ歐洲他邦ニ波及シテ之カ爲ニ多少ノ騷擾ヲ生ス即伊太利諸州及ヒ日耳

曼諸州人民蜂起シ各處沸亂汗腦地ニ塗ルニ至レリ此ノ二國ノ人民各君主專横ノ暴行虐政ヲ苦ミ決戰數次ニ及フト雖民黨竟ニ敗レテ其ノ志ヲ遂クルコト能ハス

ハンガリー日耳曼聯邦ノ一人戰ヲ勤メ奮撃ス軍頗利アリ然レトモ竟ニ魯西

亞ノ援兵來リ志意ヲ達スルコト能ハス羅馬人モ亦徒ニ共和政制ヲ立テントシテ佛軍ニ迫去セラレ退テ羅馬法王ノ地ニ避ク紀元一千八百五十一年第二月二日ニ及テ路易拿破侖強暴殘酷ノ政ヲ施シ縱ニ其ノ國律ヲ廢滅ス世之ヲコーデ、エタート喚ビ做ス而シテ自政府ノ全權ヲ奪領シ自第三世拿破侖ト號シ公告シテ佛帝トナル時ニ紀元一千八百五十二年ナリ

第三世拿破侖帝位ニ登ル以來佛國兵事日ニ忙シ帝ノ海陸軍モ亦出テ

外ニ戰フコト數處、即魯人ト爭フハクリミヤ魯國南部ノ半島島ニ於テシ土耳

其人ト鬪フハセーリヤ亞西亞西部ノ國ニシテ土耳其ノ有スル所ナリニ於テス又墨是哥府ニ

在テハ墨是哥人ト戰フ是ニ於テ佛國海軍漸ク強大ナリ其ノ貿易亦繁盛ニ至リ巴里府ノ如キハ最壯麗ナルニ至レリ紀元一千八百五十三年ニ及テ第三世拿破侖后ヲ娶ル而シテ紀元一千八百五十六年ヲ以テ后一子ヲ誕ス

史ヲ讀ム者後篇ニ記載スル所ノ世系圖表ニ由テ佛國猶立君體裁ヲ存スルアルヲ認識セシ此ノ時佛國君主タランコトヲ望ム者三人即第十世シヤル王ノ孫第五世顯理、第三世拿破侖ノ男拿破侖、オーゼン及路易、フィリップ王ノ孫巴里府伯爵路易、フィリップ王是ナリ

第二百十五篇

佛國人民ノ紀

余此ノ史ヲ作ルニ當テ佛國人民ノ品行形勢ヲ以テ其端緒ヲ起セリ而シテ今又是ノ史ヲ完收スルニ再其ノ品行形勢ヲ説クヘシ夫紀元一千七百八十九年ノ革命起ルニ因テ實ニ大ニ佛國人民ノ形勢ヲ一變セリ革命以前ニ在テハ土地ハ皆各貴族ノ占有スル所ニシテ若シ其ノ主タル者死スレハ其ノ長男其ノ地ヲ襲有ス其ノ貴族ト稱スル者一ノ貢稅ナク獨農民苦辛ノ力ヲ坐享スルノミ農民ニ至テハ辛苦力作シテ收得スル所ノ續命物十ノ八九ハ王及貴族各邑ノ租稅ニ託シテ之ヲ貢納セサルベカラザラシム其ノ情ノ憐ムヘキ往古封建ノ世ニ在テ奴隸ト呼フ者ト異ナル所無シ然ルニ革命ノ日ヨリ政府茲ニ留意シ此ノ種ノ民ヲ遇スル甚厚ク往時

官ニ沒收セシ所ノ土地ハ農民ノ請求スル所ニ隨ヒ各之ニ頒與シ其ノ價ハ年月ヲ追テ漸次ニ納還セシム且其ノ間田地ノ耕耘ヲ起サン爲ニ官其ノ主ニ貸スニ其ノ財本ヲ以テセリ革命前ニ在テハ農民貧困ニシテ偷盜ノ心ヲ抱クアリ革命以後ニ至テハ其ノ質直勉勵節儉ニシテ其ノ身保全スルコトヲ專トシ他ノ貴族市府民等ニ卓越スルコト遠シ平等ノ農民ニ至テハ自主自由ノ風ヲ存シ一舉一動淳朴質直ナラサルハ無ク皆其ノ同位同階ナル實ヲ呈シ又能ク上下一致ノ理ニ曉通セリ佛國人民ハ其ノ軀幹強クシテ短ク縱橫相稱ヘリ其ノ眼目頭髮蒼黑ニシテ顔面淡黃色ヲ帶フ此ノ淡黃色ヲ帶フルヲ以テ此ノ國ノ貴婦女子務テ其ノ顔面ヲ粉色スルノ習アリト世ノ想像スル所ナリ

米洲人或ハ英人ノ始メテ佛國ニ至ル者一日シテ奇異ト稱スル者ハ此ノ國ノ婦人家ニ居テ萬般ノ事務ニ關涉シ忙劇奔走スル是ナリ其ノ客舍ニ於テ諸賓ニ接待シ自會計ヲ取り奴婢ヲ使役スル等皆婦人ノ手ニ屬セリ

人若シ家具ヲ買ハント欲シ匠肆ニ至レハ欸待商量シテ受券契帖ヲ作リテ其ノ價金ヲ收受スル等ノ事務皆婦人ノ掌トル所ナリ又大製造場ニ至ル者アレハ引テ其ノ室ニ入り諸器械機動ノ妙理ヲ説示スル等亦皆其ノ指揮スル所ナリ其ノ舉動作爲ヲ視テ一切ノ家業事務全ク婦人ノ管理スル所タルヲ證明スルニ足レリ

汝等若シ假圃 即假ニ製スル所ノ田圃ニ至ルアラハ穀倉廩舍ニ導キ種コシテ模範トスヘキ者 ヲ見スヘシ又婦人汝等ヲ引テ田畝ニ往キ稼穡耕耘ノ職務ヲ

示教辨解スヘシセーヴルニ在ル所ノ磁器製造ニ至テハ金貨ヲ收受スル亦專婦人ノ職トセリ

巴里府中ノ穀市ニ於ル婦人常ニ其ノ房ニ在テ麩粉或ハ諸穀ヲ賣リ周旋經營シテ其ノ牙錢ヲ得ルコトヲ務ム佛國各個ノ婦人勉強シテ其ノ自做シ得ヘキ所ノ職業ニ從事ス總テ執ル所ノ事ハ其ノ婦女子ニ適スルトト適セサルトナ問ハス佛國人ノ巧心機智アル極テ華麗ナル製造奇巧ナル寶器貴貨等ハ大ニ他邦ニ卓絶スル所アリ絹、布棉、紗、圖、繒、磁器等モ亦高價ナルアリテ外邦ニ輸出セリ彩畫彫像等ノ術ニ至テモ亦英國ニ勝レリトス唯棉布製ノ段匹、鐵製ノ諸器物凡機械上ニ就テ練熟精達シテ國家ノ利益多キハ佛國モ亦英國及米洲人ニ及ハサル所アリ

第二百十六篇

カベット宗族ノブルボン 同族ノノ系譜即世ノ常ニ此ノ族ヲ稱
シテブルボン家ト呼做ス者 分派

第四世王顯理

紀元一千六百十年書セラレン所ノ王聖路
易第六子ノ第十世ノ後裔ナリ

第四世王顯理ノ諸王子

第十三世王路易

紀元一千六百四十三年歿セリ

オルレヤン侯ガストン

紀元一千六百六十年死セリ子ナシ

第十三世王路易ノ諸王子

第十四世王路易

紀元一千七百十五年歿セリ

アージュー侯フィリップ後ニオルレヤン侯タル者

紀元一千八百三十年佛國ニ王タル路易フ

第十四世王路易ノ王子

イリッププハ此ノ侯ノ苗裔ナリ

太子路易

紀元一千七百十一年死セリ

太子路易ノ諸子

ブルゴンジ侯路易

紀元一千七百十二年死セリ

西班牙王第五世フィリップ

ペルリー侯シヤル

ブルゴンジ侯ノ子

第十五世王路易

紀元一千七百七十四年歿セリ

第十五世王路易ノ諸王子

太子路易

紀元一千七百六十五年歿セリ

アンジュー侯

紀元一千七百三十二年死セリ

太子路易ノ諸子

ブルゴン侯路易

紀元一千七百六十一年死セリ

アキターーン侯ジョセフ

紀元一千七百五十四年死セリ

第十六世王路易

紀元一千七百九十三年斬首セララル

第十八世王路易

紀元一千八百二十四年殂セリ子ナシ

第十世王シャル

紀元一千八百三十年其ノ位ヲ褫ハレ紀元

一千八百三十六年殂セリ

第十六世王路易ノ王子

太子路易一名第十七世王路易ト稱ス

紀元一千七百九十五年殂セリ

第十世王シャルノ諸王子

アングレーム侯路易

紀元一千八百三十年王位ニ登ル權理ヲ廢

セリ

ペリー侯シャル

紀元一千八百二十年害セララル

ペリー侯ノ子

ボルドー侯ニシテ又シヤンポール伯タル顯理

ブルボン家系ノ家人ニシテ未王位ニ登ラ

サルノ日己ニ第五世顯理ト稱セラレシ者

勃拿波爾的家族ノ系譜

シャル、ボナバルト

コルスニ於テアヤクナヨノ訟師ニシテ紀

元一千七百八十五年死セリ

シャル、ボナバルトノ諸子

ナールブル國王シヨセフ 後西班牙王タル者

帝拿破侖

紀元一千八百二十一年サーン、ヘレーヌ島ニ於テ死セリ

ルーシエン

荷蘭王路易

第一世拿破侖ノ皇子

羅馬王拿破侖

世之ヲ稱スルニライヒスタット侯及第二世拿破侖ヲ以テスル者

路易、勃拿波爾的ノ子

路易、拿破侖 後第三世拿破侖ト稱スル者

第三世拿破侖ノ皇子

拿破侖、ユーシエーン、路易、帝皇子ト稱スル者

カペー家系ノオルレヤンブルボン同族即常ニオルレヤン家ト稱セラル、者ノ系

路易、フィリップ

フィリップ、エガリテート稱セシオルレヤンス侯フィリップ即第十三世路易第六世ノ孫タル者ナリ

フェルデイナン、ルウイ、フィリップノ諸子

オルレヤン侯フィリップ

佛國王位ヲ嗣クヘキ世子タリ而ルニ乗車スルニ當テ其馬奔跌レテ死ス時ニ紀元一千八百四十二年ナリ

子ムール侯路易

シヨアンヴィー公フランソワ

オーマール侯顯理

モンパンシエー侯アントワー

オルレヤンス侯フェルディナンドノ諸子

巴里府伯路易、フィリップ、オルレヤン、ブルボン家系ノ代理者

シャルトル侯ロベール

小永井八郎 校

具氏佛國史下冊畢

佛國史下冊正誤

葉數	行數	誤謬	訂正
六一	三	第六世シャル	シャル
七六	六	以テ	以テ
九〇	一〇	流ス言	流言ス
九三	六	寛柔	寛柔
一一四	二	侯迎	侯迎
一一五	五	アカデミー	アカデミー
一二八	四	遺命シ	遺命シ
一五三	四	一鍵ハ ロガラン	一鍵ハ ル、グラン

一六五	二〇七	二二九	二三五	二三九	二四九	二五一	三七一	三二〇	三二〇	三三六
三	五	三	一〇	一	一	二	七	七	七	七
ロ、ドラゴナード	以ニ	フリデリック	詔書	レツトル、ズ、カツ シユ―	マリー、アントチ ツト	モツシユ―	カオント、デ、ミラ ポー	甚キシ	奔レリニ	其ノ巧
ル、ドラゴナード	以テ	フレデリック	詔書	レツトル、ド、カツ シユ―	マリー、アントワ チツト	「モツシユ―」	カオント、ド、ミラ ポー	甚シキ	ニ奔レリ	其ノ功

三四二	三五二	三六〇	三七一	三九〇
八	六	三	七	四
風發シ	官ノ位	因ヨリ	驟背	一ノ大ナル高 鈍砲
放發シ	官ノ地位	固ヨリ	驟背	一ノ高大ナル 銃砲

一 書中原語ノ左側ニ双柱ヲ施スハ總テ單柱ノ誤又(カルテイナール)(カルゲイナール)ハカルゲイナール(ゲユーク)ハゲユークノ誤歐洲米州ノ(州)ハ洲ノ誤

26/9/35

明治十六年十月六日 翻刻出版御届

東京書肆

翻刻出版人

穴山篤太郎

京橋區南傳馬町
二丁目拾三番地



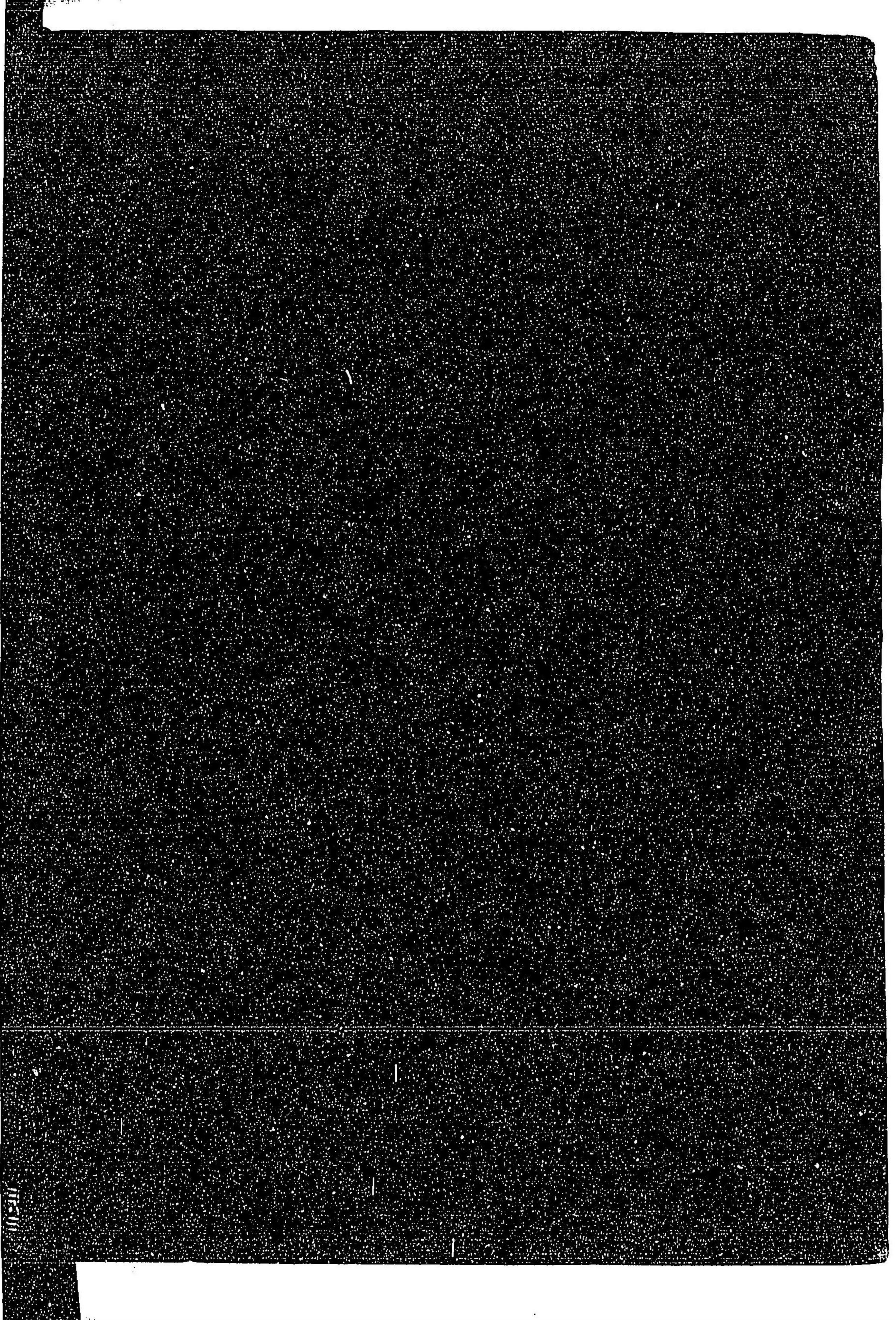
發 兌 有 隣 堂
全 所

印刷有隣堂第二活版所

Vertical text within a rectangular border, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is extremely faint and illegible due to the high contrast and grainy quality of the scan.

卷之四

29
2
51



ms-10

29
51

(M)

